

故平山郁夫さんの作品展

尾道市瀬戸田町出身の日本画家、故平山郁夫さんの作品展が26日、出雲市平田町の平田文化館で始まった。仏教やシルクロードなどをテーマにした代表作約40点の版画を展示、販売している。29日まで。

夜と朝の砂漠を旅するキャラバンを描いた「月光らくだ行」「朝陽らくだ行」は対になった作品で、寒暖差の激しい地で1日を無事終えた平和などを表現している。初期の代表作で、横たわる釈迦(しやか)を弟子たちが見守る「涅槃幻想」も展示した。

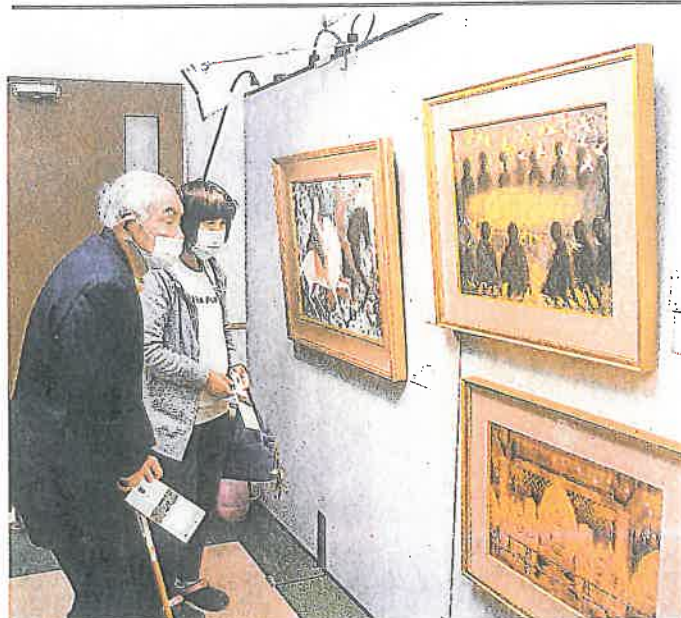
チャリティー絵画展などを催す企画会社ほるぷエーアンドアイ(大阪府)が主催。細川則幸エリアマネージャーは「平山先生が願った平和や幸せを感じてほしい」と話していた。



夜と朝の砂漠を歩くキャラバンを描いた作品

平山郁夫の版画展

【出雲】戦後を代表する 画展が、出雲市平田町の日本画家、平山郁夫さん(1930～2009年)の版「世界平和」をテーマに手



作品を鑑賞する来場者＝出雲市平田町、平田文化館

掛けた巨匠の40点が来場者の目を引く。入場無料。29日まで。

リトグラフ、シルクスクリーン、木版画、銅版画の4技法を使い、1959年から2008年までに制作された作品の版画と工芸画で、三蔵法師やお釈迦様、ラクダ、ハト、寺院などを色彩豊かに表現。広島県出身で被爆した経験を踏まえ、作品には平和を願う思いがこもる。

版画展はチャリティー絵画展を企画、運営する、ほるぷエーアンドアイ(大阪府)が主催。販売もしており、細川則幸担当責任者(58)は「平山氏の世界平和への思いを感じ、作品を楽しんでほしい」と話した。

(藤原康平)